

# くすやま美紀(樟山みき)活動報告

2020. 6. 11 NO. 279

連絡先 荻窪5-15-19-704 電話080-5531-8236

区議会控室 3312-2111(内)2319 FAX 3312-2610



## 子どもたちの安全、手厚い教育のために 少人数学級の効果は明らか 実施を迫る

6月9日、私が所属する文教委員会が開かれ、区立小中学校の新型コロナウイルス対策について質疑を行いました。

**身体的距離の確保のためにも、少人数学級が求められている**

緊急事態宣言の解除により、

6月から全国の学校が再開され、杉並区の小中学校でも1日から、1クラスを2グループに分け、1日2時間程度の授業を行う分散登校が始まりました。15日から一斉登校による通常授業に移行する予定です。

分散登校では、1グループ20人以下の少人数での授業ですが、通常授業に移行すれば、30人以上の人数となるため、不安の声が聞かれています。

日本共産党は、ひとりひとりの子どもたちに目が行き届く少人数学級を提案していますが、身体的距離の確保のためにも不可欠です。



1日の本会議一般質問で、野垣あきこ区議が少人数学級の実施を求めましたが、区教委は「検討するつもりはない」と答弁しました。

**少人数の教室「先生に声をかけてもらえてうれしい」との声が**

質疑のなかで、公明党の委員から「分散登校で、これまで学校に來なかつた子どもが来るようになったと聞いている」との発言がありました。

私は、この現象をどう捉えているかと質問。区教委は「不登校の子どもかどうかはわからないが」としながら「少人数の教室となったことにより、ふだん先生からなかなか声をかけてもらえないが、声をかけてもらってうれしいという声があった。子どもにとって、学校が本当に必要な場所だと感じたのではないかと思う」と答えました。

私は「現場の先生からも、(分散登校で)少人数のクラスになったことで「子どもたちにじっくり向き合うことができて



日本共産党が出した「学校再開にあつた緊急提言」

非常に良かった」という話を聞いている。コロナ対策というだけでなく、子どもたち一人一人の顔が見える授業を行うためにも、少人数学級が必要と思われるのか。国や都に求めるとともに、区として踏み出すべき」と迫りました。区教委は明確に答えませんでした。少人数学級が有効であることは明らかです。

### 心身のケア、熱中症対策の徹底、柔軟な教育を

質疑では、このほか、長期の休校により不安やストレスを抱えた子どものケア、夏に向けて熱中症の危険が高まることから、通学時には距離をとったうえでマスク不要の指導に切り替えることや教室での適切なエアコン使用など安全対策を徹底すること、詰め込み授業でなく、学習指導要領の弾力化で柔軟な教育を行うこと等を求めました。

# 立民・共産・社民が 宇都宮氏を応援表明

市民と野党の共闘で小池都政の転換を求める「呼びかけ人会議」は6月3日、18日に告示が迫った東京都知事選（7月5日投開票）へ向けた会議を都内で開き、野党各党が参加し、立憲民主党が元日本弁護士連合会会長の宇都宮健児氏を応援する方針を示し、歓迎の発言が続きました。



▲会合であいさつする共産・小池書記局長

会合には日本共産党、立憲民主党、国民民主党、社民党、新社会党、緑の党の代表が参加。

立民の長妻昭都連代表がコロナ禍の中で新自由主義社会の脆弱（ぜいじゃく）性が表れていることを指摘し「格差と貧困とたたかってきた宇都宮さんを応援していきたい」と、述べました。

共産党の小池晃書記局長は「長妻代表の表明をとともうれしく聞いた。共産党としても宇都宮さんを支援する」と表明。野党が都知事選で統一候補をたてたたたかうことを党首間で合意してきたことにふれ「できるだけ幅広い市民と野党で共闘体制をつくりあげ、宇都宮知事実現のため全力をつくそう」と訴えました。

小池氏は宇都宮氏が掲げる、①医療・検査体制充実と補償の徹底②都立・公社病院の独立行政法人化中止③カジノ誘致計画中止一の緊急の3課題はどれも切実に実現が求められるものばかりだと強調。「首都の知事選での勝利は暴走と迷走を重

ねる安倍政権への決定的審判になる。宇都宮さんとともに、希望ある東京をつくろう」と訴えました。

社民党の吉田忠智幹事長も「宇都宮勝利へ全力を尽くす」と発言。新社会党、緑の党の代表も宇都宮氏応援を表明しました。

## 各党の応援心強い 宇都宮氏が表明



会合後半に宇都宮氏が登壇。コロナ禍の中で都民の生存権のかかった知事選だと強調。「一人一人の雇用、住まい、命を守り抜く。保守・無党派の人々との共同も進め、知事選をたたかい抜こう」と訴え。「各党のみなさんが応援してくれたことは大変心強い」と表明しました。

一人一人の雇用、住まい、命を守り抜く。保守・無党派の人々との共同も進め、知事選をたたかい抜こう」と訴え。「各党のみなさんが応援してくれたことは大変心強い」と表明しました。



韓国ソウル市では福祉担当者が生活困窮世帯を訪問する出前福祉制度を作ることにより、それまで2割だった生活保護の捕捉率が6割まで上がった。東京でもこうした出前福祉制度を導入したい」と話されたことが、心に残りました。

宇都宮さんを囲む学習会に参加しました

6日、杉並区内で宇都宮健児さんを招いた都政問題学習会が開かれ、参加しました。

宇都宮さんは、貧困問題に深く関わってきただけに、貧困と格差をなくし、福祉を充実させることこそ都政に求められていると強調。昨年、江東区の集合住宅で兄弟2人が餓死した事件に触れ「江東区は、兄弟から生活保護の申請や相談を受けておらず落ち度はなかったとコメントしたが、